

NEUTRAL 通信 vol.13

「まるで本屋に立ち寄るかのように、アートやクラフトを気軽に楽しんでもらいたい」

という NEUTRAL のコンセプト実現に向け、NEUTRAL 通信を発行しています。

第13回目は館内全体にて展覧会を開催中の版画家・吉浦真琴さん。

NEUTRAL 通信が作品鑑賞のヒントとなりますように。

「偶然の兆し」

2024.6.22sat. - 7.21sun.



版画家

吉浦 真琴 / MAKOTO YOSHIURA

神奈川県生まれ。2017年京都造形芸術大学美術工芸学科油画/版画コース卒業、2019年京都市立芸術大学/大学院美術研究科絵画専攻版画修了。主な展覧会に2019年「砂漠の洪水」(大阪/芝田町画廊)、2021年「しちひきでもはち」(京都/ギャラリー恵風)、2023年「雷を捕まえる」(大阪/芝田町画廊)などがあり、2022年第20回南島原市セミナーヨ現代版画展で大賞を受賞するなど、版画制作を通して活躍の場を広げる。

堀川新文化ビルディング 館内インフォメーション

大垣書店
OGAKI BOOKSTORE

5月の連休も終わり、梅雨もいよいよよってきました。過ごしやすい日々はあっという間に終わりジメジメした季節が目前までできています。書店店頭では、話題書や季節の商品や堀川でしか買えない商品など、様々取りそろえています。普通の本屋さんのちょっと斜め位の当店をぜひ楽しんでください。

営業時間：10:00~22:00 TEL：075-431-5551



蒸し暑い季節がやってきます。そんな季節にぴったりなSlowPageのフラッペ「マンゴースロップ」近日リリース予定です！甘くてさわやかな味に仕上げました。フラッペとスローページを合体させてネーミングしました！商品名の感想をスタッフまでお待ちしております♪

営業時間：8:30~23:00 TEL：075-431-5551

SHOKODO
KYOTO

京都昌幸堂のブランドサイトのリニューアルをしました。印刷と工芸の新たな組み合わせを見ていただけるサイトになっており、これまでの実績や展示記録なども掲載。サイト内のSHOPでは海外への発信を始めた越境ECサイトもご覧いただければ幸いです。



昌幸堂



EC Site

営業時間：10:00~18:00 TEL：080-4248-3432 月・日祝 定休

NEUTRAL
HORIKAWA

このたび NEUTRAL は4月から会場のレイアウトを変更して、POP-UP スペースをオープンしました！展覧会に関連する商品はもちろん、今後は注目の作家の小作品やクラフト季節のグッズなどを取り扱う予定です。2階へお越しの方は、ギャラリーでの作品展示に加えてPOP-UP スペースにもぜひお立ち寄りください。また、POP-UP で取扱いの商品は NEUTRAL Online でも販売予定ですので、そちらでもお買い物をお楽しみください！

営業時間：10:00~19:00 TEL：075-431-5537

Gallery P A R C
GRAND MARBLE

scenario Notes 阿児つばさ / 2024.06.29sat. - 07.21sun.

ギャラリー・パルクは阿児つばさのアトリエになって、過去作品やこれからの作品プランが見れたり、毎週土曜日は「創作活動の日」としていろんなものをつくり、日曜日は「対話の日」としてゲストをお招きしているんなお話をしたり、月曜日は「作品についての話をしたりする日」として、自作について話したり、たまに楽器の練習をしたりします。

営業時間：13:00~19:00 TEL：075-334-5085 水・木 定休
毎週土曜のみ 10:00~19:00 開廊

堀川新文化
ビルディング
HORIKAWA
NEW CULTURE BLDG.
KYOTO

〒602-8242 京都府京都市上京区皂莢町287

[アクセス]

○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩15分

○京都市バス9番・12番・50番・67番系統

「堀川中立売」バス停下車徒歩1分

○駐車場・駐輪場あり

※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

ホームページ



Instagram



お問い合わせはHPまで



——子どもの頃のことをお聞かせください。

母が家具の設計の仕事をしていて、そうすると図面を引いた紙が出るので、タンスの隙間に裏紙がたくさん置いてあるような家で育ちました。祖母母も一緒に住んでいたのですが、ものづくりが好きな祖父のおかげで木材なども身近で、自然と小さな頃から絵を描いたり工作をして過ごすことが多かったです。

——京都へ来たきっかけを教えてください。

神奈川県出身で高校生までは地元で育ちました。高校で美術の学校に進んだのですが、学校も予備校もメンバーがほぼ同じだったので、新しい環境に身を置きたくて遠方への進学を希望。満員電車も苦手なので、京都のゆっくりにした雰囲気自分が自分に合うのかなと思って京都を選びました。大学では日本画を勉強したかったので、本物をすぐに見ることが出来る環境も魅力的でした。

——版画はいつ頃から取り組み始めましたか？

大学で日本画の勉強をはじめて2ヵ月で、自分がやりたいことは日本画ではなかったことに気づきました。描いても描いても自分が思う絵には程遠く、完成することはなく、それが耐えられなくて……。そんな時、高校生の時に見たグラフィックデザイナー・永井一正さんの作品を思い出しました。自分も「線」の作品をつくりたいと思い、2年から版画のコースに移動して本格的に勉強をはじめ今年で10年です。

——版画の面白さってどんなところですか。

銅版画は、線を彫って、腐食液につけて、刷る、というようにプロセスがたくさんあるので、自分の力だけではどうにもならない部分が大きくて失敗することも多いのですが、試行錯誤を重ねていくことで、自分が想像している以上のものと出会える瞬間があり面白いです。あと、制作途中に、それぞれの工程の合間で一息つける時間があって、ゆっくりと絵を進めていけるところが、自分のリズムにも合っていて心地よく制作ができています。

——今回展示の新シリーズについて教えてください。

以前は白黒の色のない銅版画を制作していたのですが、最近ある程度予測ができるようになってきました。テクニクが上がると作品にも良い影響を与える一面もあるのですが、予定調和で少し物足りないような気持ちになることもありました。そこで、今まで制作していなかった色のある作品をつくりたいなと思って……。新シリーズは銅板ではなくプラスチックの板を彫って、色を3色重ねて制作しています。3色になってから自分が思うようにできないことも増えて、「どうなるんだろう」と思いながら制作しているので新鮮な気持ちで作品と向き合っています。

——影響を受けた作家の方はおられますか？

学生時代、作家はこうあるべきという思い込みで制作できなくなってしまった時期がありました。そんな時に、兵庫県にある横尾忠則現代美術館へ行ったのですが、そこには横尾忠則さんの宇宙が広がっていて、その中には本当に様々なものが蠢いていました。それを見たら一気にいろんなことがどうでもよくなって……。もっと自由でいいと背中を押されたような気がしました。その後も、もやつとする時には横尾さんの短編エッセイを読みます。その時その時に横尾さんの言葉が妙に心にストンと入ってきて、私にとってのおみくじみたいな存在となっています。

—— 展覧会を見に来た方にひとこと

今回の展覧会の作品は、様々なものをモチーフにしています。古いテキストスタイルの柄からイメージしたものや、版画が最も実用的に生活の中で使われていた、明治・大正時代の錦絵から発想を得たものなど。ぱっと見たときに何が描かれているのか、またどうやって描いているのかわかりにくいかもしれませんが、ぜひ作品の近くまで来ていただき、線の表情や重なり具合をじっくり見てもらえると嬉しいですよ。



お気に入りの本

『絵画の向こう側・ぼくの内側 未完への旅』岩波書店 横尾忠則／著